

お ぜ が わ 小瀬川のいきもの

■いきものの住みかとしての小瀬川

小瀬川のいきものを **感潮域**、**湛水区間**、**流水区間** の3つの環境に分けて紹介します。色んないきものがそれぞれの環境に適応して暮らしています。

それぞれの環境の特徴

感潮域 川の水と、海の海水とが混ざった水である「汽水」が流れる場所です。潮の満ち引きの影響があり、「干潟」と呼ばれる特徴的な環境があります。

湛水区間 中市堰は川水を利用するために、海水を堰き止めています。中市堰の上流側は水を貯めており、流れが緩やかであることが特徴です。

流水区間 河道が大きく蛇行した場所が多く、流れの早い「瀬」と、流れの緩やかな「淵」が連続してみられるのが特徴です。

■感潮域

春先の「シロウオ漁」は風物詩となっています。冬には餌を探しシギ・チドリ類やカモ類がみられます。ハクセンシオマネキは、雄の片手が白く大きいのが特徴です。



汽水にすむいきもの



干潟にすむいきもの



■流水区間

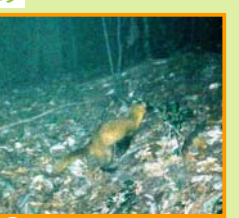
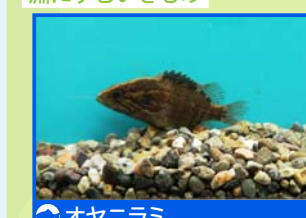
「瀬」にはアユの産卵場がみられ、「フィー、フィー」と鳴くカジカガエルもいます。水際の岩場では、キシツツジが咲いており、また、水の中にダイビングして魚を捕るヤマセミ、カワセミもみられます。



瀬にすむいきもの



淵にすむいきもの



水辺と陸地の両方を利用するいきもの



■湛水区間

水の上に浮巣をつくるカイツブリがみられます。水際の草地では、カヤネズミの巣やニホントカゲが確認されています。



周辺の陸地にすむいきもの



外来生物を捨てない! 拡げない!

元々は小瀬川で暮らしていなかったいきもの(外来生物)が小瀬川に暮らすことで、小瀬川に元々いたいきものの暮らしに負の影響があります。外来生物を増やさないように気を付けましょう。

特に注意が必要な外来生物

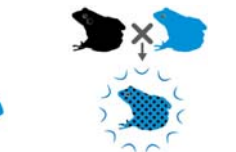


外来生物の脅威(生態系への影響)

【捕食】在来種を食べる

【競争】在来種の生息・生育環境を奪ってしまったり、餌の奪い合いをする。

【遺伝的攪乱】近縁の在来種と交雑して雑種をつくる。



参考：
環境省HP
(日本の外来種対策)